

令和3年度横浜旭陵高等学校 第2回学校運営協議会議事録

- 1 日時 令和3年11月20日（土） 10:00～12:00
- 2 場所 本校 B棟1階 多目的室
協議会委員
佐久間桂一委員 久保良法委員 大和田伸也委員 梅木博志委員 海川由美子委員
前田悟委員 小坂校長
本校職員
川島副校長 野澤教頭 稲垣総括教諭 大久保総括教諭 難波総括教諭
山森総括教諭 浦野総括教諭 高澤総括教諭 澤口教諭 本田教諭 東南教諭
欠席者
小玉敏也委員 中野保弘委員 渋谷八郎委員
- 3 内容
会の成立
委員7名の参加により本会の成立の確認（委員の過半数の出席）

第1部 評価部会（10時～11時）

（1）校長挨拶

本日は、お忙しい中、ご来校いただきありがとうございます。

しばらく続いた臨時休業が明け、10月25日（月）から11月30日（火）まで「基本的対策徹底期間」とし、県立高校は時差通学を継続しながら通常授業を行うこととなりました。本校では現在、通常より登校時間を10分遅くして9:10に1校時を開始し、本来は100分授業ですが、今は90分授業を行っています。

学校行事についてですが、2年次の研修旅行は中止としました。2年連続で研修旅行の中止は本当に残念でなりません。その他の学校行事ですが、10月26日に陸上競技大会、11月11日に文化祭を行いました。今後は、12月15日に7月から延期された芸術鑑賞会を行います。また、10月と11月に学校説明会を行いました。両日とも、午前午後を併せて約130組、約270名程度の参加があり、中学生の中に本校を希望する生徒がかなりいるんだなあ、という手ごたえを感じることができました。

生徒達の様子ですが、授業に対して本当に「真面目」に取り組んでいます。私は、日に1回は全ての授業を見る時間を作り、生徒や先生の様子を見ています。そして、最近は授業のタイミングを見て、生徒に「高校の授業はどう？わかる？楽しい？」って聞いてみます。多くの生徒が「分かる」とか「楽しい」と言っています。これは、先生方が本校生徒の特性をつかみ、意欲的に取り組むことのできる学習指導を工夫し、研究し、実践してきた成果だと私は確信しています。間違いなく、授業を通して学力と共に本校の最上位の目標である「人と社会と未来につながる力」が育まれています。欲張りな私は、来年度は更に、学力を向上させ、人と社会と未来につながる力を一つでも多く身につけさせる授業を先生方に工夫し、実践してもらいたいと思っています。

第1回の学校運営協議会の際にお話ししました、本校の特色ある科目についてですが、各教科の先生方の努力で、希望した多くの科目を残すことができました。新しいカリキュラムになっても、単位制高校が単位制高校の使命を果たすことができます。

本日は、グループ・年次・教科の本年度の年間目標についての中間評価を報告させていただきます。また、県立学校では本年度、各校の「スクール・ポリシー」を作成し、3月にホームページで公開いたします。その原案も報告させていただきます。

少し長くなりました。本日は、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただき、今年度の取組みに生かしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(2) スクール・ポリシーの策定について

校長

別刷資料と学校案内1ページ目をご覧ください。

スクール・ポリシーとは、次の3月に本校のホームページに掲載するもので、中学生や地域の方に本校の教育活動を周知するために掲載するものです。

はじめに、グラデュエーション・ポリシーについてですが、本校最上位の目標で目指す生徒像として「人と社会と未来につながる力」を掲げ、その内容として「人につながる力」「社会につながる力」「未来につながる力」を据えました。「人につながる力」はコミュニケーション能力や思いやりに、というように、スクール・ポリシーではより具体的に簡潔に記述しています。

続いて、カリキュラム・ポリシーについてですが、県の通知文書「スクール・ポリシーの作成について」をもとに作成しています。資料2枚目表(2)カリキュラム・ポリシーについては、2つ目の丸「高校生が主体的に・・・」4つ目の丸「高等学校段階の生徒が、・・・」をベースに策定しました。

カリキュラム・ポリシーの策定としては、横浜旭陵高校のポイントである、しっかりじっくりわかるできるというのが1番目のポイントになっています。

また、4つ目の丸「高等学校段階の生徒が、・・・」をポイントとして、キャリア発達を意識しながら、「人と社会と未来につながる力」を育てたいと考え策定しました。

本校は、50分×2の100分の授業、生徒のやる気を引き出すICT活用にポイントがあると考えています。そして、単位制ならではの授業を展開していきたいと考えています。

「しっかり教えます。」はICT活用で、「じっくり学びます。」は100分の授業で、「できる自分を作ります。」は自己実現を目指した学習として、さまざまな学びを支える単位制ならではのカリキュラムを念頭に置いています。さらに、3つ目のあとには「キャリアサポート」というのも入れたいと考えています。

最近、卒業生のお話を聞く機会がよくあるので、それを聞いて生徒たちに理解しやすいよう表現を工夫しました。

アドミッション・ポリシーについて中学生に伝えたいことの1つ目は、「勉強したいと思う子は、横浜旭陵高校にきてください。」です。現在は、うまく勉強できないけれども、勉強したいという気持ちを捨てていない生徒たちが多くいて、先生方は生徒の特徴を捉えて授業をしており、顔を上げて積極的に学ぶ生徒が増えてきました。

2つ目は「高校生になったら自分を変えたいと思う子は横浜旭陵高校に来てください。」です。単位制の多彩な学びの中で、新しい自分を見つけるチャンスがあるということをお願いしたいと思い、この2つを掲げました。

以上、この様にスクール・ポリシーを策定いたしました。

副校長

今後精査して県に報告していくこととなります。それでは、ご意見をください。

佐久間委員

中学生は「高校ってどういうところだろう。」と思っています。中学校側も、生徒にあった学校を勧めます。中学生が高校を選ぶ基準として勉強にかかわる授業や、部活動などの運動があります。これらははっきり示されるほど良く、それを説明してもらえるのはありがたいです。

久保委員

スクールポリシーは周りの人に学校を知ってもらい入り口になるものだと思います。横浜旭陵高校は単位制、ICT活用が特徴であろうから、それをわかりやすく書かれていることはいいと思います。

大和田委員

非常にわかりやすいです。施設は学校と似たところがあり、作成の参考になります。

海川委員

娘が校外の人に高校名を言うと、授業のことを言われることが多いです。授業が100分という印象が強い様子があり、親は自分の子供には100分授業は無理だと思ってしまいますので、100分というのは選ぶ際にネックになります。しかし、100分授業も意外と慣れれば平気になると思います。この100分が成り立つというのは先生方のご努力のおかげです。娘も勉強が好きではなかったですが、専門学校では英語の勉強が楽しい様子です。それは高校時代に英語の授業がわかりやすく、楽しかったからそこにつながっていると考えています。今後の横浜旭陵高校にも期待したいです。

前田委員

海川委員と同じ感想を持ちました。

副校長

特に異論等はないので承認ということで、県に提出いたします。まだ、未完成ではありますので、3月の学校運営協議会できちんと完成したものを報告いたします。

(3) グループより目標達成状況報告

○研究開発G（稲垣総括教諭）

グループ業務としては、組織的な授業改善、ICT利活用の研究をすすめています。

達成状況としては、第1回授業見学を受けて、10月から11月にかけて第2回の授業見学を実施しました。参加人数は、やや増で推移している状況です。授業評価については、校内のWi-FiであるBYODの活用、端末の貸出によるアンケート収集を行い、教科で分析、授業改善につなげています。第2回の授業評価もまもなく実施予定で、こちらも生徒の様子を把握して授業改善につなげていく予定です。

4月には、新しい教員が多く着任しました。ロイロノートの活用方法も講習を実施して活用方法をお伝えしています。また、プロジェクターの利用機会も増えており、本来はプロジェクターとPCなどの機器は有線でつながれています。それだと行動に制限がありますが、AppleTVやクロームキャストなどを導入することで、教室内のどこにいてもプロジェクターに投影される画面をコントロールできるのでそのような講習会を行っています。さらに、グループの予算での購入ではないですが、電子黒板を導入しました。授業でどう活かしていくかの研究をグループ内で行い、全体に共有していく必要があります。

今週の木曜日に研究授業の全体協議会を実施しました。指導主事の参加はなかったものの、今後の授業改善に関するヒントを共有できたのではないかと考えています。

○学事情報G（大久保総括教諭）

授業面については、今年度もコロナの関係で夏休み明けから分散登校として、1・2年次は週1回の登校、3年次は週2回の登校となり、それ以外の日については、オンライン授業という形式をとり、9月もそのような形式を取らざるを得ない状況となりました。その際、生徒の学びの保障のために、時間割や行事の組み替えによって、先生方にオンライン授業をしていただきました。昨年度の臨時休業期間は、登校が一切禁止されていたために課題の配信がメインであったところ、今回の分散登校では週に1、2回の登校が可能で、必要なプリントを持ち帰らせる事ができたので、双方向型授業という形を取ることができました。

現在はようやく90分授業を実施しており、少しずつ日常の授業に戻りつつある状況だと考えています。

教育課程の編成については、はじめは神奈川県からは本校の特色ある科目は、すべて置いてはならないというところからスタートしました。生徒のニーズや学びを保障するために粘り強く県と交渉を行い、教科でも科目を残すための調整や書類の作成をしてもらい、ようやく教育課程が出来上がりました。次は、現行の様々な観点数から新学習指導要領では3観点到統一されることになり、教育課程の勉強と今後の具体的な編成が課題になります。

また、来年度以降は移行期に入るので、新カリキュラムと旧カリキュラムが入り混じっているため、授業時数が非常に増えていくこととなります。教員の多忙に鑑みて授業の時間数をおさえつつ、どのように生徒の学びを保障していくのかが大切だと考えています。

入試については、今年度末の入試より在県外国人等特別募集の募集が開始となります。手探り状態ではありますが、入学後の支援も含めてこれから考えていかななくてはならないと考えています。

また、今年度もコロナ対策をしっかりとって、万全の対策でのぞみたいと考えています。昨年度、採点ミスがあった学校もありますが、本校では今まではありません。引き続き、気を引き締めて臨みたいと思います。

○進路支援G（難波総括教諭）

4年目の進路指導を担当しています。いろいろな形で取り組んできましたが、コロナ禍で生徒の登校機会が減少し、課題が山積みといった状況です。

現況としては、就職は非常に厳しいです。年次の先生方にも昨年度に引き続き、投げかけして進学を考えることができるならそちらへという指導をしています。例年の半分の就職希望者というのが実態です。それでもなかなか希望通りにはいかず、現状で就職活動している生徒が2名おり、一人は結果待ち、一人は活動中という状況です。潜在的に卒業後に活動をするという生徒もここ2年増えています。販売系の希望は土地柄もあって多いが、現状は厳しいです。若者が好むような職種の求人は、ほぼありません。卒業後、自ら行動していくという生徒も少なくありません。厳しい状況ではありますが、進学では指定校の試験が始まってくる時期です。生徒は落ち着いて活動しているように見えます。

一方で、いろいろと問題がでてきます。就職では早期退職が散見されます。耐性がなく、社会に出てから学校の延長線になっていて、就職後、仕事が続かない状況が見受けられます。

ここ数年、卒業の半年後に電話をして追跡調査を積極的に実施しています。たまたま、次週の月曜日、卒業生を囲む会を企画しており、現2年生に話をしてもらおう予定です。昨年、一昨年に卒業した20数名に来校してもらい、話を聞くような企画をしています。いろいろ話を聞くと、やはりもうやめてしまったという生徒が散見される印象です。会社に謝罪に行ったりするようなこともあります。

進学では、進学した生徒の大学での成績が芳しくありません。オンラインで講義形式になると、そのスタイルに馴染めず、学力面の不足もありついていけない傾向にあるのではないかと

大学の先生がおっしゃっていました。アクティブラーニングを取り入れている大学もありますが、まだまだ普及しておらず、昔ながらの講義形式をとっている大学も多く、講義型の授業は、聞く力が試されるため、生徒の能力不足が露見してしまいます。より、学び直しをしていかななくてはならないと考えています。課題は多いですが、少しずつ解消しなければ、前進できないので、毎年同じことにならないように、1つずつ改善していきたいです。

○生徒成長支援G（山森総括教諭）

生活指導、教育相談がグループ業務です。学年集会、HRなど様々な場面でマナーについて繰り返し話をし指導していますが、バスの乗車などを含め苦情をいただくことがままあります。粘り強く指導していく必要があります。

教育相談については、SSWの拠点校ということもあり、相談に来る生徒は多いです。予約が毎回一杯になるような状況ですので、心の問題を抱える生徒に、養護教諭、担任、年次、SSW、SCなど連携しながら手厚く支援していきたいと思えます。

そのために、情報交換会議にて、全体で情報共有を徹底していく取り組みを実施しています。来週、いじめ問題の会議もあり、情報共有を徹底することを考えています。

○自主活動支援G（浦野総括教諭）

グループ業務としては、部活動・学校行事などをやっています。コロナの状況下でできることは手探りの状況です。部活動は20%ちょっとの加入率で大きな変動はありませんが、2年次は入学当初休校だったため加入率は低いのに対して、今年の1年生は比較的活発な印象を受けます。また、学校の特性として、4・5月に部活に入るとは限らず、固定概念を捨て、部活動に参加する生徒が増えていくよう年度始めに限らず声をかけていく必要があると考えています。また、今年は、試合を終えて終わったな、という気持ちで部活動を引退できていたのは良かったと思います。今年は陸上部にも有望な選手がいるようなので、楽しみにしています。

学校行事については、文化祭を11月11日（木）に実施しました。

今年は、中学生や保護者の来校はできませんでしたが、来年はフルスペックでできるかもしれないという期待があります。一方で、教員側の運営のノウハウがなくなってしまうのが懸念材料でもあります。また、芸術鑑賞会は12月に実施予定です。現状では実施可能だと思われま

す。生徒が地域に出ていくボランティア活動ですが、今年や去年はこちらも積極的に行くよう自信を持って言えない状況でした。生徒からの問い合わせがあったものについては、ケアプラザさんから頂いた資料など、生徒に共有し、1、2名がお世話になっている状況です。就職活動や進路活動の中で、一生懸命にやったことを浮かべることができない生徒が多く、なにかやりたいのですけど、と相談しに来た生徒もいました。依頼として直接メールをもらいましたが、画像編集ができるボランティアはいないかというように、ピンポイントに来てもらうと学校としても生徒に声をかけやすいです。

○総務管理G（高澤総括教諭）

現在控えているものとしては入学式や卒業式があり、形態について模索段階にあります。昨年度並ではあるものの、保護者になるべく多く出席していただけるようにという卒業年次の要望を反映させたいと考えています。なお、前期の終業式は放送にて実施しています。

資料にあるように、情報発信に力を入れています。特にホームページを使って学校説明会の参加を受け付けました。説明会は、先週土曜第1回（1度目の開催が延期）を開催し、午前135名、午後112名、計247名という参加者がありました。密を避けるため、午前と午後に分割し、60組くらいずつ説明を行いました。今後の説明会については、在県外国人等特別募集に関して模索段階のところがあり、手探りですすめているところです。説明会はあと2回の実施を予定しています。中学校訪問も現在実施中で、資料を持って訪問をおこなっています。競争倍率だけをみて学校を選ばないよう、100分授業のことなど丁寧に説明しています。

命を守る観点では防災訓練を実施していますが、シェイクアウトを9月に実施できませんでした。また、不祥事防止の点で、夏季休業中、教員研修としてロールプレイによる研修を実施し、普段気づかないところを中心に貴重な機会を設けることができたと考えています。

ICT利活用事業では、PTAに支援してもらいプロジェクターなど購入、有効活用に努めています。

委員からの意見

佐久間委員

7月に授業を参観しました。その後、市教委からICT授業実施の通達が来て、役立てることができました。中学校では、ロイロノートによる出欠確認を実施しています。横浜旭陵高校でも5年目でようやく回っているのですから、1・2年でできるようになるものではない、という言葉で無理に焦らずに取り組むことができます。今年3割の教員が使えればいいかな、と思っています。横浜旭陵高校のICT活用を参考にしながら、本校もICTの活用ができるようになってきました。来年も近隣の学校を呼び、参観の機会を作ってもらえると嬉しいです。

進路支援で、インターンシップや職業体験に参加したという報告が資料にあります。協力いただける企業、事業所をどのように探したのでしょうか。

難波総括教諭

神奈川県企画物でやったものです。幹事校があって、コンソーシアムという形で、県下で協力してもらえる企業を募るので、民間企業は少なくなる傾向にあります。反面、看護、介護、保育の施設関係が中心になります。一覧の形式が決まっているのでそこから生徒が選ぶ形式です。一般的にはそこから選択しますが、独自に近隣事業所と協力して実施している高校もあります。今年度は、例年の3分の1に減少、期間も短縮傾向にあります。

久保委員

コロナ禍の中では制限があることを理解しています。ICTの利活用に対しては先進的なことを相変わらずなさっているというのがわかりました。教育プログラムを我々の施設でも実施しており、オンラインでは対面するものとのギャップがあってもなかなか深まりません。情報の伝達はできますが、議論はなかなか難しいと感じています。どこまで伝わっているのか、肌感覚でわかることは難しいです。我々でさえそうなのだから、学校は難しいのだろうなと思いました。就職については、来年に向けて少しずつ回復することを期待したいです。

ところで、来年から学習指導要領が新しくなるとのことですが、大きくなにか授業のやり方や方向が変化するのでしょうか。

大久保総括教諭

新学習指導要領では、主体的、対話的で深い学びにおいては、一人一台の端末を活用して、学びの姿勢を評価していこうという流れがあります。主体的に学ぶ姿勢の部分も評価しようということで、今の授業でやっている内容よりも更に生徒たちに考えさせたり、問題解決をさせたりというスタイルになっていくと考えています。

学校設定科目よりも、文部科学省が作っている枠組みでやりなさいということになってしまいました。冒頭でも話した通り、学校設定科目は1度廃止しなさいという指示がでました。しかし、通常設定の科目では指導できない内容、高校生が学ぶにふさわしい内容であれば許可されるようです。

学校設定科目について、文部科学省や教育委員会のイメージは大学に近い研究成果を出せるものというイメージがあるようですが、勉強に不器用な子がたくさんいるなかで、生きる力を養える科目を置きたいということで、粘り強く交渉したことでほとんどの科目を残すことができました。教育課程説明会では評価の指示がでますが、本校ではすでに行っているところで、細かく生徒に考えさせる指導を実施しています。内容はあまり変わらないですが、評価の観点を含めた仕組みの変化は大きいです。指導をする内容としては変わりなくやっていける自信はありますが、仕組みの部分がガラッと変わっていると考えています。

大和田委員

生徒成長支援について、コロナ禍で生徒の心のバランスを保っていくのは大変だと思います。今年度の半ばからは、法人ということもあり、高卒の方を採用する機会が増えています。幼さもありながら、頑張っ取り組んでもらっています。若い職員の話聞く中で、心のバランスを崩すことが多くあります。よく話を聞くと高校や大学の学生時代から心のバランスを崩していたりするケースがあります。生活リズムの乱れから、夜寝付けないことも多いようです。学生の健康状態など、自分から相談にくる場合はよいですが、自分から来ない生徒には先生はどのようにキャッチしていくのか知りたいです。

また、部活動の加入率の数字が出ていましたが、正直その数が多いのか少ないのかわからないです。高校時代、私は野球をしていましたが、成績との関係はどうなのかなと思って聞かせていただいていたところでした。

さらに、コロナ禍が落ち着いている中で、生徒のワクチン接種の状況を収集しているのでしょうか。

大久保総括教諭

生徒の心のバランスに関して、生徒が休みがちになるのは1つのサインだと考えています。担任がキャッチして声をかけて話を聞くと、いろんなことが出てきたりします。原因もいろいろありますが、分散登校など、長期の休みの後に、もとに戻れなくなってしまう、自分のリズムを上手に作れなくなってしまうことが、コロナ禍の影響としてあります。また、少しずつ、潜在的な問題が、重なり、友人とのトラブルが引き金になって、表に出ることもあります。担任はキャッチをした段階で問題に応じて、SSWやSCに繋いだり、保護者面談をしたり、生徒と面談をしたりと、問題解決に向けて働きかけているところです。

コロナ禍のワクチン接種についてはワクチンを打ったかどうかは聞けないきまりになっています。ワクチンの対応については、ワクチンの接種日・副反応が出た日を出席停止にしています。口頭の報告だけではなく、手続きを経て出席停止にするので、書類提出により接種率を調べることはできますが、やってはいけないことなのでやっていません。ただ、接種のピークは過ぎている感じがします。かなりの割合で、ワクチン接種をしていると思われます。多いときは、一日20件ほどの届け出がありました。ワクチン接種していない生徒もちろんいますが、ワクチン接種に関してはご家庭の判断に委ねている状況です。

浦野総括教諭

部活動については、加入率は学校によって色々ですが、80～90%の学校もあります。有望な選手がいるという話もありましたが、あくまで個人競技の陸上競技部の話で、人数が必要な競技人数がきちんと決まっている部活動に関しては、部員の確保が難しい部もあります。今、サッカー部が練習中ですが、3校でチームを作っています。野球部も合同チームでやっています。3年生が1人で、今は引退しました。その前は合同チームで初めての勝利を収めた年もありました。妥協してメンバーを募るのではなく、きちんとやりたい生徒がいる学校同士で合同チームを組むようにしているため、相手校も決まってきました。ある程度お互い様という状況で活動しています。

梅木委員

コロナ禍の状況の中で、積み重ねてきたことが止まってしまった部分があります。われわれは、自主活動支援に近い活動を行っています。地域の活動も始まってきています。特にSDGsに着目していて、2つの地区は時勢を反映して、家にある食材を提供していただいて地域の生活に困っている家庭に配付する活動をしており、フードロスを減らすことにもなります。教育面でも接点を持てると、さらに幅が広がるだろうと思われます。

社会福祉協議会の仕事としては、特例の貸付を行っています。高校3年生と1年生がいる父子家庭で、二人のバイト代で生活している家庭があります。食料の現物支援を実施していますが、生活が解決しない部分があります。社会福祉協議会では現物支援もしています。必要があればご連絡いただきたいです。

海川委員

学事情報などは難しい言葉ばかりです。時代は令和なんだと思うような難しい言葉が多いですが、わからない言葉からですが、わからないことがちょっとでもわかれば楽しくなってくると思うので、最前線の勉強の仕方は、横浜旭陵高校では実施されていると感じています。勉強は苦手かもしれないですが、楽しんで学習することができるように、配慮してもらえています。引き続き先生方には、学習指導を工夫していただけるとありがたいと思って聞いていました。「〇〇先生の授業はとても楽しいんだよ。」という娘の声をよく聞いていました。

前田委員

ここ数年、緊急事態宣言下で先生方とのコミュニケーションが取れないですが、子ども達のためにPTAとして、動ければと思っています。出席率がここ2年のPTAとしてはよいので、PTAと学校の連携を強化していきたいです。

(4) 本校の「ICT利活用授業」の取り組みについて

大久保総括教諭

ICT事業の指定をいただいて、3年サイクルで動いています。平成25年より始まり高校改革Ⅱ期の指定を今年度までいただいています。佐久間先生から5年後にはというお話をいただいて、最初の頃はICTについて何も分らなかったのが、今年度は7月に近隣の学校の先生方をお招きしました。その際にデモンストレーションしたときの資料を入れました。主体的対話的で深い学びについて、情報化の取り組みを発表する機会が多くあります。右上にある本校のICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」は、勉強が苦手な生徒にわかる授業の展開をするというのが一番の根幹にあります。

わかる授業展開をした上に、友人との協働作業、発表、調べ学習など、それをやっていくためにICT機器を利用しています。ICT機器で授業をするのであって、ICTは目的ではなく手段であることを大事にしたいと思っています。

生徒も文房具を使うのと同じようにスマホやタブレットを使います。我々も黒板で説明することもあります。タブレットなどを使って説明することもあります。一番下にある「特別なことから当たり前のことへ」はそのことを表しています。これを使うと効果的であるという場面でICTを使ってもらっています。支援体制がなければ輪が広がらないのでグループ横断的チームで支援体制を維持しているところです。多くあるICT機器の管理もポータルサイトで機器使用予約をしています。業務アシスタントの方がICT機器の管理に長けている方なので、かなり助かっています。今年度はコロナ禍の関係で、予算がついたため、電子黒板、プロジェクトを増やしていこうと思います。県からのリース・PTAからの寄付などを合わせるとひと教室に1台設置できるのではないかと期待もあります。ICT活用授業が大きく前進するだろうと思います。

委員からの意見

久保委員

参考にさせていただきたいと思っています。

大和田委員

写真でイメージしながら拝見しました。引き続きご尽力いただけるとと思っています。

梅木委員

ICTはわかる授業のためのツールであることを大事にされていて、素晴らしいと思いました。翻弄されることがないようにしたいですね。

海川委員

ただひとりで黙々とタブレットを使用して授業するのではなく、みんなで作ったりしているのがよいと思いました。人前で話すことは、恥ずかしがりの人には大変ですが、社会に出れば、必要な力になると思います。

前田委員

各教室にプロジェクターが設置できるということは、先生達にも効率が上がって良かったです。会社でも、プロジェクターを使う機会はありますが、難しい部分もあり教わっていることもあります。タブレットを使って、というのは社会に出ても必要になるスキルなので、横浜旭陵高校は進んでいるなと思いました。

第2部 地域連携部会（11時15分～12時）

（1）地域連携授業について

副校長

コロナ禍で活動が難しいですが、少しお話させていただきます。ICT利活用授業の公開及び協議会は7月2日に実施しました。ICT利活用指定校の本校として、できることは何かと考えて近隣には広く呼びかけ、4校から8名の参加がありました。実際の取り組み紹介、デモンストレーションをしました。少しは地域のお役に立てたのではないかと考えています。佐久間先生から依頼のあったように、次年度以降も機会があれば前向きに検討していきたいです。

ズーラシアについては、遠足でお世話になりました。他にも、歩いて数分の場所にあるため、色々な形でお世話になっています。学校設定科目「zoology I」「zoology II」では、ズーラシアの施設を見るだけでなく、動物園の歴史などを学ぶなど、生徒自身が選んだ動物について1年を通じて学んでいます。動物園のバックヤードに入れてもらうなど、多大な協力を頂いています。繁殖センター（一般には公開されていません）というところに私も理科の教員で興味があって参加させてもらいました。絶滅が危惧される動物の繁殖などをおこなっており、普段見学に行くだけでなく動物園の裏側を勉強させていただいて、生徒も非常に興味深く勉強し、生徒は動物に対する思いを深めることができました。地域の連携の面から、特色ある授業を実践できているのは、協力があったことです。

旭ズーラシア駅伝もあると聞きました。旭区役所主催ではありますが、実施可能であれば是非参加協力させていただきたいです。

地域貢献デーについては、コロナ禍で実施できませんでした。以前は1年生が近隣の施設や保育園を訪れ、清掃活動をしたり、ふれあい活動をしたりしていました。2年生はなんとか清掃活動をできないかと考えていましたが、天候の点から実施できませんでした。次年度以降も地域連携として活動推進していきたいです。地域の自治会の方から、高校生の若い力を地域に還元してほしいという意見も前回より頂いています。まだ実現できていませんが、皆様からご意見いただければありがたいです。

久保委員

「zoology」の授業、来年度以降も実施が決まり、なくならなくてよかったです。今年の駅伝は中止です。

大和田委員

本施設には、知的障害をもつ（かつ65歳以上で、身体機能の低下も見られる）方が所属しています。例年であれば横浜旭陵高校の生徒が訪問し、介護体験などを行っていましたが、クラスターの発生もあり、施設の中も厳戒態勢の中で支援を行っています。緊急事態宣言解除後、

施設利用者も外出可能、実習生も受け入れています。大学などの福祉実習の学生を2週間で受け入れていることもあるので、機会があれば横浜旭陵高校の生徒さんも体験学習にお越しください。

梅木委員

進路支援の話について、家庭や学校以外で、大人と関わる機会を持つことは、大人になってから重要になります。その経験を担うという支援ができればと考えています。

海川委員

生徒のストレスが心配です。可能な限りいろんな行事ができれば思い出作りができます。そういう学校再建をお願いしたいです。

前田委員

近所にいたので、3年前に地域ケアプラザの掃除をしている横浜旭陵生などに声掛けをしたことがあります。地域の大人との関わりは大切です。外に出る機会は刺激になります。緊急事態宣言もあり、なかなか機会が持てなかったですが、これからもつなげて行ってほしいです。

(2) 校長より

教頭

4月から赴任しました。多くの制約がある中で、本校の職員は生徒達のためになるような授業展開、学校行事企画など常に考えて行動しています。今後、制約が和らげば、開かれた授業に委員の皆様にもご参加していただきたいと思います。行事などの風景も是非お越しいただき、どのように楽しみながら行っているかなどを見てほしいです。他の学校と比べて生徒指導の件数は多いですが、生徒達の気づきを大切にして指導しています。近隣でご迷惑をおかけしていますが、今後もよろしくお願いいたします。

教師がICTを活用する上で、教材提示などICT機器を駆使して授業を展開できています。教員側も生徒に寄り添った授業展開を考えています。

校長より

日に日に前に進んでいると感じています。先生方が色々考え、生徒のことを考え、把握しながら実践しているからだと思います。本日はありがとうございました。

(3) その他

第3回 学校運営協議会について

3月12日(土)を予定しています。